

## 8.10 廃棄物

### 8.10.1 調査事項

調査事項は、表 8.10-1 に示すとおりである。

表8.10-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・ 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
予測条件の状況	・ 施設の利用者数
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調布市の分別方法に従い、古紙、布、ビン、缶、容器包装プラスチック、牛乳パック、ペットボトルの7種は、資源として分別回収を行う。</li> <li>・ 廃棄物の保管等のスペースについては、廃棄物の種類別の収集間隔や収集作業を考慮し、必要かつ十分なスペースの確保を行う。</li> <li>・ 施設内のテナントに対して、包装や使い捨て容器利用の削減、リユース食器の利用等の推進を誘導する。</li> <li>・ 施設利用者に対して、分かりやすい分別表示を行う。</li> <li>・ スポーツ大会、イベントの開催時において発生する廃棄物については、各事業者が事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理を行う必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する。</li> <li>・ 産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。</li> <li>・ オリンピックレガシーとなることを踏まえ、施設の運営にあたっては、更なる廃棄物の再資源化を検討していく。</li> </ul>

### 8.10.2 調査地域

調査地域は、計画地とした。

### 8.10.3 調査手法

調査手法は、表 8.10-2 に示すとおりである。

表8.10-2 調査手法

	調査事項	廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とした。
調査期間	予測した事項	2019年1月～12月とした。
	予測条件の状況	2019年1月～12月とした。
	ミティゲーションの実施状況	供用開始後の適宜とした。
調査地点	予測した事項	計画地内とした。
	予測条件の状況	計画地内とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地内とした。
調査手法	予測した事項	関連資料の整理による方法とした。
	予測条件の状況	関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	関連資料の整理による方法とした。

## 8.10.4 調査結果

## (1) 調査結果の内容

## 1) 予測した事項

## ア. 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

本施設は、スポーツイベント等を開催しており、施設等の持続的稼働に伴う廃棄物（産業廃棄物以外）の発生量は、表 8.10-3 に示すとおり約 0.19t/（2 日間）であった。

発生した廃棄物は、可燃ごみ、不燃ごみ、ビン・缶、再利用対象物等の廃棄物の種類別に分別回収及び保管場所を設置し、東京都廃棄物条例（平成 4 年条例第 140 号）及び調布市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例（平成 5 年条例第 24 号）に基づき適切に処理・処分を行い、表 8.10-3 に示すとおり再利用量・再資源化量（産業廃棄物以外）は約 0.10t/（2 日間）であった。

なお、産業廃棄物については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、適切な処理を行った。

表 8.10-3 施設等の持続的稼働に伴う廃棄物の発生量及び再利用量・再資源化量

項目	単位	数量		
		発生量	再利用量・再資源化量	再利用・再資源化率
合計（2 日間）（産業廃棄物以外）	t	約 0.19	—	—
可燃ごみ	t	約 0.08	0.00	0%
不燃ごみ	t	約 0.01	0.00	0%
資源ごみ	t	約 0.10	約 0.10	100%
古紙・雑誌・新聞	t	約 0.01	約 0.01	100%
段ボール	t	約 0.08	約 0.08	100%
缶	t	0.01 未満	0.01 未満	100%
瓶	t	0.01 未満	0.01 未満	100%
ペットボトル	t	0.01 未満	0.01 未満	100%
産業廃棄物（年間）	m <sup>3</sup>	54	—	—

注 1) 調査結果は年間値であり、年間値を予測結果（貯留 2 日間）の日数に換算した値を示す。

注 2) 四捨五入の関係で、表記上の合計値が合わない場合がある。

廃棄物の処理・処分方法等は、表 8.10-4 に示すとおりであり、廃棄物の種類別の収集間隔や収集作業を考慮し、ごみ集積所は必要かつ十分なスペースの確保を行った。

表 8.10-4 廃棄物の処理・処分方法等

- ・廃棄物は、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、再生紙、ダンボール、ビン、缶、ペットボトルに区分し、まとめて保管。
- ・洗浄排水設備及び作業上の必要面積も考慮した十分なスペースを確保。
- ・ごみ集積所は 1 階北側に配置し、塵芥車による収集作業のしやすさを確保。
- ・ごみ収集業者による収集。

## 2) 予測条件の状況

施設の利用者数は、約 5,400 人/（2 日間）であった。

## 3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.10-5(1)及び(2)に示すとおりである。なお、廃棄物に関する問合せはなかった。

表8.10-5(1) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・調布市の分別方法に従い、古紙、布、ビン、缶、容器包装プラスチック、牛乳パック、ペットボトルの7種は、資源として分別回収を行う。
実施状況	調布市の分別方法に従い、廃棄物の分別を行っている。
ミティゲーション	・廃棄物の保管等のスペースについては、廃棄物の種類別の収集間隔や収集作業を考慮し、必要かつ十分なスペースの確保を行う。
実施状況	<p>廃棄物は、可燃ごみ、不燃ごみ、ビン、缶、ペットボトル毎に分別保管し、保管や作業に必要なスペース約 115m<sup>2</sup>を確保した。</p>  <p style="text-align: center;"><b>廃棄物の保管スペース</b></p>
ミティゲーション	・施設内のテナントに対して、包装や使い捨て容器利用の削減、リユース食器の利用等の推進を誘導する。
実施状況	定期的な調整会議により、施設内のテナントに周知している。
ミティゲーション	・施設利用者に対して、分かりやすい分別表示を行う。
実施状況	<p>ごみ箱にはピクトグラムと併せて分別種別名を表示した。</p>  <p style="text-align: center;"><b>ピクトグラムと分別種別名を表示したごみ箱</b></p>

表8.10-5(2) ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション	・スポーツ大会、イベントの開催時において発生する廃棄物については、各事業者が事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理を行う必要があるため、大会やイベントの開催事業者への十分な周知を行い、開催事業者が処理・処分を行うように調整する。
実施状況	スポーツ大会、イベント開催時に発生した廃棄物は、開催事業者の責任において処理・処分するよう指導している。
ミティゲーション	・産業廃棄物が発生した場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び東京都廃棄物条例に基づき、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況はマニフェストにより確認する。
実施状況	産業廃棄物については、収集・運搬・処分の許可を得た産業廃棄物処理業者に委託して処理・処分を行い、その状況をマニフェストにより確認している。
ミティゲーション	・オリンピックレガシーとなることを踏まえ、施設の運営にあたっては、更なる廃棄物の再資源化を検討していく。
実施状況	更なる廃棄物の再資源化については、今後、動向も踏まえて対応を検討していく。

## (2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

## 1) 予測した事項

## ア. 廃棄物の排出量及び再利用量並びに処理・処分方法等

廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較は、表 8.10-6 に示すとおりである。

フォローアップ調査における産業廃棄物以外の廃棄物の発生量は、約 0.19t/(2 日間)であり、予測結果である約 1.41t/(2 日間)を下回った。施設利用者数が少なかったことから発生量が減少したものと考えられる。なお、1 人あたりの発生量は、約 35g/人であった。再利用・再資源化率は、50%であり、予測結果である 47%と同程度であった。フォローアップ調査における産業廃棄物の発生量は、約 54m<sup>3</sup>/年であり、予測結果である約 50m<sup>3</sup>/年と同程度であった。

以上のことから施設等の持続的稼働に伴う廃棄物は、適正に処理・処分されている。

表 8.10-6 廃棄物の予測結果とフォローアップ調査結果の比較

項目	予測結果		フォローアップ調査	
	発生量	再利用・再資源化率	発生量	再利用・再資源化率
利用者数(2 日間)	約 23,200 人	—	約 5,426 人	—
1 人あたりの発生量	61g/人	—	35g/人	—
産業廃棄物以外(2 日間)	約 1.41t	47%	約 0.19t	50%
可燃ごみ	約 0.57t	—	約 0.08t	—
不燃ごみ	約 0.17t	—	約 0.01t	—
資源ごみ	約 0.66t	100%	約 0.10t	100%
産業廃棄物(年間)	約 50m <sup>3</sup> /年	—	約 54m <sup>3</sup> /年	—

注 1) 調査結果は年間値であり、年間値を予測結果(貯留 2 日間)の日数に換算した値を示す。

注 2) 四捨五入の関係で、表記上の合計値が合わない場合がある。